研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-83C		17-099	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol consumption and breast cancer-specific and all-cause mortality in women diagnosed with breast cancer at the New York site of the Breast Cancer Family Registry.

乳がん女性におけるアルコール摂取量と乳がん死亡および全死亡との関連__The Breast Cancer Family Registry のニューヨーク地域において

執筆者

Zeinomar N, Thai A, Cloud AJ, McDonald JA, Liao Y, Terry MB.

掲載誌

PLoS One. 2017 Dec 15;12(12):e0189118. doi: 10.1371/journal.pone.0189118. eCollection 2017.

キーワード	PMID
アルコール、乳がん死亡、前向きコホート	29244822

要　旨

目的：

飲酒は乳がん発症の危険因子として確立している。本研究では、乳がん患者における 12 歳からの飲酒量が乳がん死亡、その他のがん死亡、全死亡に与える影響を検討した。

方法：

1995 年より実施の前向きコホート研究（The Breast Cancer Family Registry）のニューヨーク地域の参加者 4,004 名のうち、データ欠損のない乳がん患者女性 1,116 名を対象とした。ベースライン時の自記式質問票より、6 か月以上かつ週 1 以上の飲酒を飲酒者、それ以外を非飲酒者とした。飲酒者においては、アルコール種類別かつ 12 歳からの年代別に週当たりの飲酒量を尋ねた。1 杯はビール 12 オンス、ワイングラス 1 杯、蒸留酒 1 ショットとした。2011 年までの追跡期間中、毎年家族からの聴取および National Death Index を用いて死亡要因の情報を入手した。乳がん死亡の ICD コードは、ICD-9 174 または ICD-10 C50 とした。Cox 比例ハザードモデルを用い、アルコール摂取量による乳がん死亡、それ以外のがん死亡、および全死亡のハザード比（HR）および 95%信頼区間（95%CI）を算出した。乳がん死亡の調整因子は、年齢、BMI、人種、経産数、初産年齢、初経年齢、閉経年齢、ホルモン治療、ピル、喫煙、教育レベル、運動量、授乳期間とした。

結果：

平均追跡期間 9.1 年の間、全死亡 211 名、乳がん死亡 58 名であった。多変量調整後、非飲酒者に比べて、飲酒量に関わらず飲酒と全死亡（≦週 3 杯 HR [95%CI]: 0.66 [0.38-1.14], >週 3 杯 1.16 [0.85-1.58]）、乳がん死亡（≦週 3 杯 0.62 [0.19-2.03], >週 3 杯 0.96 [0.49-1.89]）、およびそれ以外のがん死亡（≦週 3 杯 0.73 [0.32-1.60], >週 3 杯 1.18 [0.75-1.86]）との有意な関連はみられなかった。タイプ別、年代別の飲酒と乳がん死亡も関連がなかった。

結論：

乳がん患者女性において、12 歳からの飲酒量と乳がん死亡、それ以外のがん死亡、および全死亡との関連は認められなかった。